

メッセージアウトライン ヨハネ19：25~30 「完了した」

イエスの十字架のそばに立っていた四人の女性たち。彼女たちはイエスの着物を分け合ったローマ兵たちとは対照的に、イエスの身を気遣って、わがことのように案じていたのである。(25) ①イエスの母マリヤ、②母の姉妹――並行箇所のマタイ7:56によれば、「ゼベダイの子らの母」、その名はマルコ16:1によれば、「サロメ」。さらにマタイ4:21を見ると「ゼベダイの子ら」とはイエスの弟子のヤコブとヨハネであることがわかる。これらのことからヤコブとヨハネはイエスと従兄弟どうしであったということになる。③クロパの妻のマリヤ――エマオの途上で復活のイエスに会った弟子の一人クレオパの妻のことか。(ルカ24:18) ④マグダラのマリヤ――イエスによって七つの悪霊を追い出された女性として有名。(ルカ8:2)

「女の方」(26)これはよそよそしい言い方ではなく、愛と尊敬の込められた呼び方。神の子としての立場からイエスはこのように呼びかけておられるのである。イエスは今、母マリヤに向かって、「そこにあなたの息子がいます」とヨハネのことを指して言われ、そしてヨハネに対しては、「そこにあなたの母がいます」(27)と言ってマリヤのことを託されたのである。これは自分の死後、母の世話をたのむという依頼であった。これはマリヤの魂に対する愛の配慮であった。私たちも自分だけではなく、家族の救いのために配慮をするべきだろう。

「この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、『わたしは渇く。』と言われた」(28)→詩篇69:21

「酸いぶどう酒」(29)とは安物の酸っぱくなってしまったぶどう酒のこと。これはローマ兵たちの飲み物であり、十字架上で渇き苦しむ死刑囚たちのために備えてあったものであろう。「ヒソブ」とは川辺に生える30~40cmほどの芦のような草で、そのヒソブを束にして酸いぶどう酒を含ませた海綿にさし込んで、それをイエスの口元に持っていったのである。イエスはここで酸いぶどう酒を受けられた。(30)そして、「完了した」と言われた。神の救いのわざがついに完了したのである。そして「頭をたれて、霊をお渡しになった」。イエスは自主的、主権的に自分で自分のいのちを父なる神にお渡しになったのである。→ヨハネ10:18

このようにして救い主イエス・キリストによる全人類の贖いのわざは完了、完成した。もはや誰も、何もこれに付け加える必要はない。ただイエスの十字架の死は私の罪のためであったということ信じ、イエスを救い主として受け入れることによって救われるのである。

このイエスの十字架は神の私たちに対する愛のあらわれであった。これほどまでに私たちは神に愛されているのである。私たちはこのことに深く思いを巡らせて、全面的にこのお方により頼みつつ、喜び、感謝、祈りをもって従い、礼拝する者になりたい。

ヒ°リ° 2:3~8, I テサロニケ5:10~11,14~18参照